

議会運営委員会会議録

(閉会中 令和元年 7 月 1 9 日)

長 与 町 議 会

長与町議会運営委員会会議録（閉会中）

本日の会議 令和元年7月19日

招集場所 第1委員会室

出席委員

委員長	岩永政則	副委員長	浦川圭一
委員	中村美穂	委員	内村博法
委員	河野龍二	委員	竹中 悟

欠席委員

なし

出席委員外議員

議長	山口 憲一郎	副議長	西岡 克之
----	--------	-----	-------

職務のため出席した者

議会事務局長	谷本 圭介	議会事務局理事	富永 正彦
参事	森本 陽子		

本日の委員会に付した案件

- （１）長与町議会運営に関する申し合わせ（先例集）の見直しについて
- （２）所管事務調査について
- （３）その他

開 会 9時26分

閉 会 15時17分

○委員長（岩永政則委員）

ただいまから議会運営委員会を開催をいたします。本題に入る前に、局長が出張が入りまして、この場を10時半に退席をさせてくれということで、研修のことについて、改めて前回の経過を踏まえて御報告等を最初にさせて頂きたいと思いますので、ご理解を頂きたいと思います。それでは、局長。

○議会事務局長（谷本圭介君）

おはようございます。所管事務調査のことについて、少しお話をさせていただきたいと思います。お配りしたものにホッチキス留めが2つあります。まず左2か所留め、こちらは今度初日に伺います神奈川県秦野市議会の議会要覧でございまして、先方の方では特別冊子は配りませんのでホームページからダウンロードしてくださいという御依頼がありましたので、打ち出しをさせていただきましたので、当日までに一読していただければと思っております。そして左上にホッチキス留めのプリントがありますけれども、まず1枚目、先日皆さんに具体的な質問事項がありましたらお願いしますということで募集をいたしまして、結果いただきましたのを少しまとめて、こういう形で先方には連絡をしております。先方が所管事務調査で一応流れを想定されておまして、説明をする準備はされてるんですけども、それとは別に、こういった項目についても御教示をお願いしますということで依頼をしております。次は2枚目です。めくっていただいて横書きのものです。行程表ということで、先日、3日目所管事務調査が終わったら、そこで食事をした方が良いんじゃないかという御意見がありましたので、埼玉県の見沼市議会での所管事務調査終わりましたら、見沼の方で食事をして、それから空港に向かうという段取りに変更しております。ただ、こちらあくまでも予定ですので、状況によりましては多少時間が早まったりすると思いますので御了承いただきたいと思います。それと3番目、昼食の件です。3日間とも予約はできました。初日は秦野駅前の中華料理屋、こちらたまたま昼のランチコースがありましたので、それを予約する予定にしております。2日目は茨城県境町ですが、向こうの町議会がいつも行政視察を受け入れるときにここを推薦してるということで、道の駅に茶蔵というお店がありまして、向こうの手配で予約をしていただいております。これはビュッフェ形式になる予定です。3日目、埼玉県見沼市議会のすぐそばに松栄庵というお店がありまして、ここは何か席は予約は取れたんですが、下に書いておりますように、こういった行程でこちらに伺いますということをお話ししましたら、お店の方が時間のロスがないように、あらかじめメニューを決めておいていただけるとすぐお出しできますということで、事前にこういった料理が良いか数を教えてくださいということでしたので、お勧めのコースということでABCDE5つありますけれども、数だけカウントしたいので、急な話なんですけど、今ちょっと数を確認させていただきたいと思うんですが、まずAを御希望の方、挙手お願いできますか。お1人ですかね。はい分かりました。Bを御希望の方はいらっしゃいませんか。Cを御希望の方は、Cがお2人ですね。Dを御希望の方は、お1人で

すね。じゃあ残りの方はEということでよろしいでしょうか。じゃあAが1人で、Bはなく、Cがお2人で蕎麦、Dがお1人で、Eが残りの方ということですね。分かりました。それで注文しておきます。めくっていただいて、これはホテルの位置図になります。新宿駅の南口の前にバスターミナルがございまして、そのすぐそばのホテルでございしますので、新宿駅までは意外と近い所ではないかと思っております。それとめくっていただいて、注意事項ということで列記をさせていただきましたが、飛行機は8時15分発のANA662便になりますので、ちょっと早いんですが7時半に長崎空港1階のANAカウンター前付近に集合していただければと思います。航空券は飛行場で配布をさせていただきます。そして、そのときに事前の返還金ということで一部、旅費の方をお渡しする予定にしておりますけれども、今後の日程の変更等に伴いまして、もしかすると事前の返還金はせずに最後一括で精算という形をとらせていただく場合もありますので、どうかよろしく願いいたします。それと、下から2つ目のところです。ICカードをほとんど都会の方は使いますので、ざっとカウントしまして8,000円ほど入金をしていただければ十分だと思いますので、よろしく願いしたいと思います。それと一番最後、同じホテルに2泊いたしますので、中日30日は、荷物をホテルに置いて移動ができますので、貴重品や筆記用具とか資料をいただいた場合の、入れるバッグや手提げとかそういったものを準備していただけると便利かなと思っております。めくっていただいて、最後になります。所管事務調査、3日間行きますけれども、Facebookに毎回その日の内容ということを書いていただいております。写真は事務局で撮って議会事務局に送信いたしますけれども、Facebookの文章を皆さんで順番に担当を決めていただいて作成して事務局の方へ送っていただきたいと思いますので、それを決めていただきたいと思います。こちらからは以上です。よろしく願いいたします。

○委員長（岩永政則委員）

説明が終わりましたが、一番最後のページは別として、その前までに何か質問ございませんか。ないですか。それでは一番最後のFacebookの文章作成者を決めていただきたいと思います。29日は秦野市、30日が境町、31日富士見市、そういうことで大体3行ないし4行ぐらいの文面で送っていただければということでお願いしたいと思うんですが、7月29日希望者ありませんか。暫時休憩したいと思います。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。研修につきまして、ほかに質疑ありませんか。ないようでしたら、書いてありますとおり、是非お忘れなきようお願いいたします。それでは、研修はこれで打ち切りまして、本題の議会運営の基準を議題といたします。配付をいたしておりましたように、会規50、発言の許可等から入ってまいりたいと思います。50につきまして何か御意見ございませんか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

会規50の5項（登壇又は）起立が困難な場合は、事前に議長に申し出て質問というふうになってます。この事前に議長に申し出るっていうのが必要なのかどうかですね。そういう状況というのは会議の中でも分かるでしょうし、申し出が無いとできないというふうな形になると思うので、ここは特に外していても良いんじゃないかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの委員、何かございませんか。5項の件についての河野委員からの指摘でありますけども、事務局は何かありませんか。

富永理事。

○議会議務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

基本的には起立なり登壇という前提がある中で、それを敢えてしないというのが、今と言うと安部議員が事例として挙げられますけども、安部議員の場合は起立ができないというのが分かっていますから、それで流れてきてるんだと思います。例えば、それ以外の方が足を怪我したりとか、松葉杖とか起立が困難な状態になったときに、この人が立つのか挙手をするのか、それをそのときに本人に任せてしまうという形になってしまうので、本来であれば議長が表決を採る立場にある中で、立つのか挙手か分からないという前提は作らずに、例えば、立てない人は議長に「今日は立てないから挙手でさせてくれ」というようなことがないと、単純に立ってなければ起立が無いと思われるし、手を1人で挙げているというのも想定をされるんですよ。ですから、あくまでもその表決の態度を本人がどう取るかというのは、議長に伝えておくべきであろうという前提のこの申し出でございます。分かっているだろうということであれば、削っても構いません。文章としてはですね。ただ、しかしそうすると、立つ人立たない人、挙手をする人しない人が、はっきり議長の中では分からないので、そういう人をちゃんと注視して、確認してからでないと採決結果が言えないということも想定されるということで、一応文言としては入れております。ついでに申し訳ないんですが、この会規50の1で、頭が「議員提出議案」と書いてるんですけど、「議会提出議案」に訂正をお願いしたいと思います。委員会提出議案もあるので。とにかく議会の提出議案と委員長報告と少数意見報告は登壇ということに修正をお願いします。事前に議長に申し出の部分については、私はあつた方が明確だろうということで入れたつもりでございます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

「申し出」というのが口頭で大丈夫なのか、通知で大丈夫なのか。その辺も極端に言えば、この申し出はどうするのかという部分も必要になってくるのではないかという気がするんです。前段で「起立が困難な場合は」っていういわゆる身体的な状況を明記してるんで、議長除けばわずか15人。そういう環境ならば議場にいてそういう状況は分

かっているんじゃないかなというふうに思いますので、敢えて「申し出」というのが、「しとらんやったじゃないか」という形で、例えば採決が無効になったりだとかにならないようにせんといけないと思うんですよ。それは条件として、当然分かることだと思うんですけども、ふと忘れたときにそういう場合が出てこないとも限らないというところで、敢えて入れることで枷が出るのかなという気がするのです。その申し出については説明が要らないものなのかどうなのか。そこまで細かくしていくと、本当にあまりよろしくない会議規則と言うか、申し合わせ事項になりはしないかという気がしてならないんですけど。敢えて入れる必要性が僕は無いと思うんですけども。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

そうすると、例えば議案が複数あるときに1つは立った、1つは挙手した、それが自由にできるということになってしまうと思います。ですから、申し出てですから、文書でというのは入れてませんので口頭で問題ないということで考えてますけども、例えば「今日1日足が痛うして立ちえんけん、挙手でさせてくれ」と。本来、起立が原則なんですね。それができないということですから、採決権を持つ議長には伝えとかなないと議長の判断ができないということですから、この申し出が足枷になるのかならないのか、逆に本人は挙手でさせてくれということですから、当然申し出るべきだろうということが入っていた方が良くと思います。そうしないと表決の度に立ったり立たなかったりということが可能になってしまいますから、それでいいならそれで構いませんけども、本来であれば起立原則のところを今日は起立しきらんという状況は、採決権を持つ議長には伝えておくべきと考えます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

西岡委員。

○委員（西岡克之委員）

私たちの先輩が1人、車椅子で来たことがあったと聞いたことがありますので、そういうときはちゃんと申し出て、たまたま手術をされた挙句だったので車椅子で来たということだったんですね。そのときだけだったと思うので、やはり申し出て、次はどうもなかったから起立できたんですから、その場だけだったので、それこそ15名、16名しかおらんとやけん、1回言ってみればすぐ分かると思うので、ちゃんとした意思表示をする意味でやっぱり申し出て、議長に言うべきじゃないのかなと思います。ずっとできないっていうわけではないのですよね。それと、もし間違ったらごめんなさい、1人居眠りしてて立ちそびれたという人もあったんですね。それもやっぱりあるので、ちゃんと議長に申し出ておけばいいんだろうと思います。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方。浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

今、事務局の説明は採決の場合を例にとって言われたんですが、採決の場合は、当然議長の許可というのは事前に申し出て、これは必要だと思うんです。非常に数えにくいと思うんですよ。言うとかんば。ただ、ここで言う50の発言の許可と考えれば、やっぱり議長が指名をするわけですから、そのときに当事者がこういう事情で座ったままとか、発言をさせてもらいますということを言えば済む話ではあるんだと思うんですよ。だから分けて考えんばとかなと私は思ったんですけども。そういうことで発言の許可等については、別に議長に申し出というのは要らないんじゃないかなと。ただ採決については、こういうことでさせていただきますということを事前に言うとかべきじゃないかなということは思いました。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方。意見はありませんか。会議規則の50条が基本にあるわけですね。これで不足をするものを補うという意味で、この5項目が今出ているということですので、あくまでも50条につきましても、議長の許可が前提、そういう表現をしてあるということ。それでもさらに、それも発言が簡単なものと、その他議長が許可したときのことは、ただし書きで本文にありますけども、それで不足分が、今の議会の想定をしたときに、必要だということであるというような考え方から、事務局はこれを出してきたんじゃないかというふうに思うんですけども。不必要で運用が可能だということであれば、皆さんの総意でどうするか決定していきたいというふうに思いますけどね。

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

私は全く違和感無いですね。議会というのは、もうほぼ議長の許可をもって発言をしたりするもんだからですね。内容は皆さんが言われるのはよく分かるけども、文言として入れとくのには何ら差し障りがないと。このままの文章で良いと思う。それだけです。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの委員の方、2つに割れたようですけども。

内村委員。

○委員（内村博法委員）

これ括弧書きで登壇と書いているからですね。登壇というのは一般質問のことを予定していると思うんですよ。ほかにもあるかもしれませんけども、原則論から言えば一般質問の登壇ということで、登壇の場合も安部議員みたいに座ってされる方も。再質問のとき、それから一般質問の席で車椅子で座ったままされるケースもあるわけですね。だから必ずしも採決の場合だけ想定してないと思うんですよ、この文言は。だから事務局はそういうふうに考えてこの文言を作られたと思うんですよ。だから私は別に採決、登壇の、なぜ括弧書きしてあるかよく分からないんですけども、入れるとしても良いと思うんですよ、括弧外して。一般質問の登壇だから、安部議員みたいに座ってされるケース

は、やはりあらかじめ議長の了解を得てされているというのは今までの慣例だから、それは今までの慣例でいいんですけど、安部議員の場合は。しかし、例えば急に腰痛とかなった場合に、議長の許可を得て出てくる場合があるかもしれません。例えば健康状態がその日に悪くなったりした場合に座って発言をしたいとか、質問したいとか、採決したいとかいうケースが生じるから、私はこの文言は入れて良いと思います。別に差し障りないんじゃないかなと思いますけども、当然のことだろうと思います。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

すみません、もう一度。会議規則の８１条の２で、先程浦川委員が言われた採決と発言という意味の部分で、８１条が起立による採決ということで、議長は云々かんぬんということ。８１条の２で起立できないもの取り扱いという形で会議規則に謳って、「起立しない者及び賛否が明らかでない」そういうふうに謳ってますね。「起立による表決において、起立しない者及び賛否が明らかでない者は、否とみなす。」ちょっと待ってください。私が誤解してみたいですね。ちょっと発言を取り下げたいと思います。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

皆さんを惑わすような文言で申し訳ございません。会規５０の５の頭の（登壇又は）っていうところは、登壇をどう扱うかっていうことで考えたんですけども、ここはまず４番を受けるんですね。４番が「質問席及び議席から発言するときは、起立して行う例である。」と。これの反対の条件として起立ができない人は起立しないでもいいよということでございますから、登壇は基本的に車椅子以外の方は立って行くというのが通例と言いますか普通でございますから、括弧を削って「起立が困難な場合」で始まっても問題ないかなと。あと、確かに「議長に申し出て」を削っても十分通用する文言だとは思いますが、皆さんがよければもう削るという形で問題ないかなとは考えます。その「登壇または」の「登壇」は無い方が良いのかも。４番の「起立して行う例である。」を受けて「起立ができないときは起立しないで発言することができる。」というふうに４番に対応した５番ということで位置付けをすれば、それでもいいのかなということと考えます。現行、今やってる発言の場所、起立の有無とか、そういう部分を書いておりますけども一般質問の登壇の部分。今登壇して皆さん最初の１回目はされてますけども、議会によっては最初から質問席でする所も結構あります。と言うのは、一般質問は執行部に向けてするという立ち位置から考えると執行側と対峙すると。今執行側と同じ側から議員に向けて、傍聴席に向けて一般質問をしてるという形でございますから、現行のままで良いかどうかというところはちょっと別の話として考えていただきたいなということです。あと討論も今自席で立ってやっていますよね。よその議会に行けば、討論こそ

演壇で議員に向かって話しかけると。討論そのものが自分の賛成なり反対の意見を述べて、ほかの議員を説得という形の位置付けになっておりますから、今やってるこの一般質問の1発目の演壇と討論の自席討論、今のままで良いということであれば、現行どおりでこのままで良いかなということで考えてますが、その辺り変えた方が良いという意見があれば、そこはまた検討していただければと考えてます。5番については、まず頭の「（登壇）」を外すのと、議長に申し出る部分は外しても良いのかなということで提案をさせていただきます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

配っていただいた大きな資料の、まだ議論になってませんがA3の会規81のところ、これが表決の場合の対応なんですよ。会規81の1項「起立が困難な議員は挙手をもって替えることが出来る。」というふうにしているわけですね。これは前の申し合わせ事項がそのまま生きてて、ここも議長に事前に申し出るっていうふうにせんばいかんのかなっていうふうに思うわけです。同じ対応をするならですね。だから発言の場合もここでは既に「議長に申し出する」というふうにはなってませんし、ここもそういう起立困難な場合、身体的だとか状況だと思うんですよ。だからそこを理解してるというような意味では、敢えて入れる必要性がないというふうに、やはり改めて思います。

○委員長（岩永政則委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

81に意見が言われたんですが、81の場合は私は議長に前もって言うとかんばいかんと思うんですよ。いきなり起立を求めたときに、通常何もいない人が立たんで手を挙げたって、これは非常に分かりにくいと思うんですね。だから採決の場合は言うとかんばいかんかと私なりに思うんですが、こっちの発言の許可のところでは、議長に仮に前もって言うとして、議長が指名をして発言を許可をしたときに、いきなり座って話をしたときに、周りの人は何も分かんわけですよ。何でこの人は座って言いよつとかんというような疑問を持たれる懸念があるので、そういうときは、やっぱりこの方がこういう事情で着席して発言をさせてもらいますぐらいのことは、一言言えば済むんじゃないかなと思うんですよ。だから議長に申し入れんでも良いとかではなくて、議長に前もって言ってもいいでしょうし、当然そういう場面になったときに、発言をされる方はそこは言うべきじゃないかなと思ってますので、私はこれを書き加えることが正しいのか正しくないのか、どっちでも良いという気持ちではおるんですけども。そういう考えでおります。

○委員長（岩永政則委員）

意見が2つに分かれておるようですけども、採決するというのもいかなものかとい

うふうに思いますので、もう少し調整ができればと思います。どうですか、事務局は。整理としては「（登壇又は）」っていうのは消していいわけですね。ほかに議長の許可を取るのは当然だから入れんでもいいという感じはします。今、事務局から括弧書きと「事前に議長に申し出て」というのは削除しても良いんじゃないかという発言が出ておりますけども、それ以外にはここに入れておくことが非常に問題になるということが逆にあるのかということを考えていただいて、無ければ今の削除の部分削除して、そのまま残すという方法もあろうというふうに思うんですが、皆さんいかがですか。

内村委員。

○委員（内村博法委員）

事務局が言われますように「（登壇又は）」という括弧書きを削除。４項を受けて、これはもう削除して一向に構いません。事前に議長に申し出てというのは本会議でもいいし、本会議以外でも議長に「私はちょっと今日は体調が悪いので、座ったまましゃべらせていただきます。」とかそういう話はあって良いのではないかと。ということであれば、これは入れておいていた方が自然な姿であろうかと思います。そうしないと、あの人は座ったまま何で発言してるんだろうと思う人がいるだろうし。じゃあ、あの人が座ったまましゃべれば自分も座ったまましゃべろうかという風になるから、やっぱりけじめはつけとかなといかんと思います。だからこれは残しといて良いと思います。

○委員長（岩永政則委員）

それではもう１回確認ですが、「（登壇又は）」と「事前に議長に申し出て」というのを削除して、以外についてはそのまま残すということでいいんですかね。全部残して「登壇だけ」。皆さんいかがですか。

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

今、委員長が言われたのは、始めの括弧書きと事前に議長に申し出るというのが、ごっちゃになってましたから、まとめてちゃんと話をしてください。そうしないと私たちも、賛成か反対かという意思が表示できません。

○委員長（岩永政則委員）

先程、括弧書きと、事前に議長に申し出てということを事務局は削ってもいいんじゃないかということで、いかがですかという話をしましたら、内村委員は括弧書きについては削ると、申し出については生かすということだったんですかね。ちょっと私が勘違いしとったんですけども。頭の括弧書きだけを削ったらどうかというのが内村委員の意見であるということの確認で、それ以外は残すという意見であるわけですけども、それでいいですかね皆さん。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

それではそういうことで取り扱いをさせていただきます。次に、会規５１発言の要求につきまして、先に進めてまいります。

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

先程事務局の方から、議席に向かって発言をするのかというのを少し審査してくださいという要望があってましたよね。その辺は外していいんですか。議席から行う質疑、討論ですね。少しおかしいんじゃないかと。討論の場合は議員に対して話をして説得するのが正しいんじゃないかというそういう定義づけになってるみたいだけど、その辺はもう外して、51にそのまま行くんですか。

○委員長（岩永政則委員）

いや、行くんですかではなくて、何か良い方法があれば、あるいは現在はそういう形でしておるけれども、そういう意見が事務局であったというのは事実ですけども、それについての議論はありませんでしたので、何かあればどうぞ出してください。

中村委員。

○委員（中村美穂委員）

一般質問は登壇してから今現在行っているっていう、私が議員になってからそういう形でしているものというふうに捉えているんですけども、ほかの所では最初から今再質問する質問席から、おっしゃるように執行部に対して質問をするわけですから、登壇しなければならないのかっていうのは、私も思ったところではあるんですけども、最初から質問席からしている議会もありますよっていう、割合としてどの程度の議会がそういうような方法を取られてるのはお調べになられているのでしょうか。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

数的には押さえてませんが、実際に最初から質問席でされてる市議会とか県議会辺りも最初から質問席の方からされてますし、町村議会においては、最初は元々が演壇スタートだったんで名残がずっと残ってますけども、半分までいかないと思います。でも全自治体の議会を全部調べれば、ひょっとしたら半分ぐらいは質問席から執行部に対して最初から質問をするという所はあるんじゃないかなというイメージでございます。

○委員長（岩永政則委員）

中村委員。

○委員（中村美穂委員）

質問は執行部に対しするというのが筋だというのは分かっているんですけど、傍聴者に対しても、議員に対して言っているわけではないと思うんですけども、そういった形で登壇して、最初の自分が質問する意図と言いますか、それについて発言をするために登壇するのかなっていう意味合いもあるのかなと。私自身はもう最初から質問席でもいいのかな、それで変更されても構わないのかなと思っているところと、あともう1点、討論が議員に対して説得ということも含めるということではありましたが、現実的に

1人1人登壇して討論を行うっていうのは、時間が掛かるのかなあと考えますし、議員の方に向かないと議員は聞かないということではないのかなと思いますと、討論の場合はそのままでよろしいのかなと思っております。

○委員長（岩永政則委員）

何かこの項目をこうした方がいいというような、そういう意見ではなかったんですか。中村委員。

○委員（中村美穂委員）

事務局の提案に対してですけれども、質問に登壇して行うっていうことは、私としてはもう登壇しなくてもいいかと思うんですけれども、せっかく傍聴者とかそういう自分の質問に対する意図を鮮明にするということで、登壇が今のままだでもよろしいのかなと思います。それと討論については議員に対してということで議員の方に向かってしてもよろしいのではないかと、正にそちらの方が登壇してもよろしいんじゃないかというような話でしたけれども、実際には登壇してするということは時間も掛かりますでしょうし、議員は登壇しないとその意見を聞かないというようなことではないでしょうから、討論については今までのように自席からでもいいということで、トータルしますと現行のままだでもよろしいのかなと私自身は思っております。

○委員長（岩永政則委員）

この会議50については、訂正なり、あるいは追加なり、ほかにありませんか。いいですか。無いようでしたら先に行きますよ。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

そしたら50についてはこれで終了をしたいと思います。次に会規51発言の要求につきまして、何か御意見ありませんか。いいですかね。議長の認定に対して異議は認められないということが追加であるというな、具体的に、議長が認定したらもう異議は駄目ですよという意味ですね。いいですね。

（「異議なし」の声あり）

それでは51はそのとおりにさせていただきます。次に51の2、51の3については別に無いということでございます。次に会規52ですね、1項、2項が8項目あるようです。ありませんか。標準の基準の中から、かなり入ってるようですね。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

それでは52につきましては、このとおり決定をさせていただきます。次に53につきましてはありませんですね。会規54発言の内容の制限について3項目あるようですが、何かございませんか。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

1項の「簡明にするとは」という文言ですけど、簡潔明瞭っていうのが尺度がなかな

かそれぞれの判断のような状況がありますよね。ここでいろいろ説明しても非常に難しいんじゃないかなというふうに思うんで、簡潔明瞭っていうのは、議長も冒頭一般質問するときなんかとも言われますんで、敢えてここに文章を盛り込むっていうのが果たしてどうなのかなと。簡明とはと説明しているところが、ちょっと違和感があるなというふうに思いますんで、発言の内容の制限という意味ではここにこれを入れるっていうのが適当かどうかってなると、この1項は必要ないんじゃないかと思いました。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの委員の方ありませんか。用語の解説は要らないんじゃないかという意見ですが、事務局はどういう趣旨で書かれたんですか。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

議員必携からの引用にはなるんですけども、会議規則の54の1「発言は、すべて簡明にするものとし、議題外にわたり又はその範囲を超えてはならない。」と。「簡明」なり「議題外にわたる」とか「範囲を超えない」というところは、ある程度書いておいて、議員の皆さんには目を通していただいた方が良いかという意味でございますので、確かに「簡明」の「簡潔明瞭」についてはグレーなところがありますけど、それにしても結局だらだらと冗長にわたることなくということでございますから、この辺りは事務局的には書いて、皆さんにはこういう基準があるよということで認識を深めていただきたいという意味では、あった方が良くということで考えています。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

内村委員。

○委員（内村博法委員）

前回の議長の経験から言えば、これは入れとった方が良くと思います。何故かと言いますと、やはり新しい議員の方もおられるし、やはり気付かないところが出てくるわけです。議論が伯仲しとって議題外にわたるときもこれは出てくる。今でもあったわけです。だからやはりこれは常識的に考えんといかんのですけれども、このまま残して良いと思います。簡潔明瞭っていうのはこれも常識的に考えんと。どれが良い簡潔明瞭かっていうのはその時々判断でせざるを得ないですから。まさにこここのところは議長の判断になるわけですよね。だから注意もしないといかんし、議題外にわたったら注意しないと。そういうことで、これはやはり残した方が良くと思います。そうしないと議長は何の根拠に基づいて言ってるのかっていうたら、これに基づいて言ってますよということが言えるわけでございますんで、逆に残しとった方が良くんじゃないかと思います。当然ながら常識的なことなんですけど。けど、その常識的なことがなかなか守られないケースもありますので。それは過去の事例を見ても皆様お分かりかと思いますが、やはりベテラン議員であっても、やっぱりこれを踏み外すということはあるわけですから、議論が伯仲した場合ですね。だからやはり私は残しとった方が良くと思います。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの委員の方、発言ありませんか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

「簡明にする」という言葉は入れとっても良いと思うんですよ。ただその「簡明とは」というのを説明してるところが、先程内村委員も言われた常識的なところですよ。 「簡明にするとは」というのを説明してるところが、敢えて必要ないのかなと。

「簡明に発言する」というところは入れておいて良いと思うんですが。そこが「だらだら」という文言で説明されてるところが、敢えてそういう説明をする必要性があるのかなって気になるところですね。「だらだらと」というのが基準の条文としてそういう文言を使うことも果たしてどうなのかなと。擬音みたいな形ですよ、だらだらというのは。そういうのを敢えて説明の中に入れて、「簡明に行うこと」ぐらいで大丈夫なんじゃないかなというふうにちょっと感じてるんで、発言させていただいてます。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの委員の皆さん方ありませんか。

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

条文に「簡明にするもの」という文言があって、そこに「簡明とは」ということでございまして、ここは入れとっても私は良いのではないかと思います。

○委員長（岩永政則委員）

いいですか。ほかの委員の方ありませんかね。

中村委員。

○委員（中村美穂委員）

先程内村委員がおっしゃって、一般質問とかで思いが募って思わず長々説明してしまったり思いを語ってしまうというのはどうしてもあるかと思うんですけども、前回の議会とかで、発言してるとそうなかなかないというのが分かるんですけども、やはり改めて入れて、どういう意味だっというのは分かるはずなんですけれども、説明文として入れとくのは問題はないのかなと。そこは議長が毎回おっしゃるわけなんですけれども、それは分かって一般質問とか発言はしてと思いますが、持論の展開になってしまう方がいらっしますよね。質問じゃなくて。やっぱり今回新しく改選後ということもありますので、説明文としては入れておいてもよろしいのではないかと思います。

○委員長（岩永政則委員）

内村委員。

○委員（内村博法委員）

私が前回議長のとき毎言ってるのは、そういうケースがないように毎言つとるわけですよ。議会ごとに毎日毎日言ってるわけです。それ今まで無かったんです。その前

の議会のときは、注意を喚起するために毎回毎回私はあれを口述書に入れたんですよ。毎回。毎日毎日入れとるんですよ。事務局は御存知のとおり。それは注意を喚起するために毎回毎回言っとったわけです。そういう経験でやっていたわけですが、それから見ればやっぱり入れとった方が良いかなと思います。これは補足ですけど。

○委員長（岩永政則委員）

それでは、このまま入れるということで。

（「異議なし」の声あり）

「だったら」っていうのは日本語ですかね。標準語かな。そうですか。それでは、そのまま入れるということで決定をさせていただきました。ちょうど10時半になりましたので10時40分まで休憩をいたします。

この場をもって、局長は退席をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

（休憩 10時32分～10時41分）

○委員長（岩永政則委員）

それでは時間がまいりましたので、休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

会規55質疑の回数について議題としたいと思います。何か不都合な点等、お気づきの点ありませんかね。いいですか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

1項で規定の回数まで連続して行うと言ってますよね。今現在本会議での質疑は3回と、同議案に対してですね。例えば会議の運営上、何度かあったと思うんですけど、2回発言したと。そのあと違う議員が発言して、またその議員が3回目やけんと言って発言をした経緯があると思うんですけど、こういう場合はもう許されないというふうにしてしまうものなのか、連続してというふうになるとですね。そこを確認します。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

会議規則の55条の方で3回を超えることができないという回数については、もう規定がされておりますので、ここでは規定の回数までということで書いております。連続して行うというのは、一括質疑方式をうちが採用を原則としております。質疑を何度も繰り返させないというのがこの趣旨ですね。これもやった、これもやった、ということは一般的には許されないと。同一議題については3回までと。その3回の連続の仕方については、よく予算案のときに幾つか出てきますよね、これとこれとこれとこれとこれについて質疑です。例えばそこに5項目、ABCDEという5個のことを聞いた。その2回目には、この5個の範囲内でしか質疑はできないというのは皆さん御存じだと思います。最初に自分が聞きたいことは全て出さない限り、2回目以降に新たな問題は追加できないというのは御承知されてるというふうに思いますけども、最初の1回目が、

例えば10個聞いた。この10個を聞いて5個分かった。残りの5個についてさらに聞く。これはOKです。そしてこの5個が2回目、この5個を聞いて、さらにこの中の2つがもういっちょ聞きたいと。で、2つ聞く。これが3回。連続して3回の3回ですね。ですから1回目の質問の範囲から外に出ることは原則できないということでございますので、一括質疑方式で規定の回数までと。今説明した質問の範囲をここに明文化することも1つの手かなということで考えたんですけども、今、皆さんの質疑を聞いてますと、ちゃんとそれに則って、新たに追加されることはされてない。聞いてて確認はできると思いますけども、基本的に質疑は3回目までと言うのは、まず1回目の中に聞きたいことは全て聞かないといけない。11個目はあり得ないということです。1回目で10個聞けば。ですから吉岡議員がよく一般質問のとき、これ、これ、これ、これと言いますが、2回目3回目は、この範囲内で次の質問をされている。3回目はその中で、3回に行くときはですね。大体吉岡議員は2回目で終わりますけど。そういうことでございますので、質問の範囲は1回目の範囲内に限られるというところがございますので、その部分はまた改めて説明はしても構いませんが、一応会議規則上の質疑の方法と言いますか、範囲というのはそういうふうに解説がされておるところでございます。

○委員長（岩永政則委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

例えば一般会計予算、これが議題だと思うんですね。例えば1回目に建設部門の質問をしました。答弁をいただきました。2回目の質問で、福祉部のこれについてはどうでしょうか。答弁をいただきました。3回目に教育委員会のこれどうでしょうか。この質問は許されないということですね。1回目で全部、建設、福祉、教育委員会みんな聞いとかなばということですか。連続して3回じゃないですか。一般会計予算の中の話ですよ。そういうことなんですかね、私、ちょっと理解が違ってました。分かりました。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

質疑の扱い方については、またちょっと別の議論で説明なりをさせていただきたいと思いますが、一応この基準については、一括質疑方式だということと3回まで連続して行う。ですから、例えば2回連続で聞いて、また次の質疑、ほかの議員の質疑に入って、もう1回3回目ということはまずあり得ない。それは分かりますね。ですから一括質疑方式で、その一括の中で3回まではできるよと。3回以上はできないという原則論ですね。この1項はそのことを書いてます。2項については議題以外の質疑はできない、意見要望は慎むということですから、一応先程話題になった、その範囲内というところはまた別の話でさせていただければと思いますけども、基準の文言とすれば、こういう文言で良いかということです。一括質疑の部分と、連続して行う。これは今現行のとお

りだということで考えておりますけど。

○委員長（岩永政則委員）

ほかにありませんかね。

中村委員。

○委員（中村美穂委員）

私も浦川委員が言われたところでちょっと自分が勘違いしてたのかなと思ったんですが、一般会計とかで質問されて、例えば5個聞きたい。その中で回答が得られて、その5つの中の2つがもう少し深めて聞きたいからというふうにおっしゃったんですけども、私はそういう意味じゃなくて、その部門にわたって先程この件について質問した、次のところでここの部分はどうですかという聞き方をされてる方がいるんじゃないかなと思うんですね。なので、最初に聞きたいことがあるんだったら先程言われたように建設部門とか福祉部門とか教育委員会とか全部、例えば3回しか質疑ができないので、10あれば10、1回目に質問をしなければならないという捉え方じゃなくて、私の中では3つを聞かれた。その3つについては納得をされた。一般会計いろいろ多岐にわたってますので、ほかの部門について、では先程のは分かりましたけれども、ここについてお尋ねしますという形があってるんじゃないかと思うんですけども、ないんでしょうか。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

この1回目2回目3回目というのは、1回目があるから2回目があるんですね。例えば1回目10個聞きます。10個の範囲内で分からない2回目を聞く。これはもう明らかに2回目ですね。11個目が出たら、これは1回目ですよ。そういう考えです。ですから実例で言いますと吉岡議員とか竹中議員は予算のとき結構項目をこれとこれとこれとこれっていう質問されてますけども、1回目の質問が出て、10個言って10個答弁を聞いて、その中で改めて分からんところを再度聞く。この範囲内で聞かれています。そこはもう大丈夫だと思います。この部分については、この条文とは別の話なんで、その辺りは後で整理をさせていただきたいと思いますが、先程御説明したように最初の1回目で10個聞いた。11個目は、1回目に11個言わない限りは、10個の範囲内でしか2回目はないということ。ここで11を言ったらこれは1回目になっちゃうので1回目と2回目を混同しないという意味で、一括質疑方式の場合は、そういう位置付けをされてる議会が多いです。ですから、時津町もこれを文章で書いて説明をします、同じことを。ですから、そこ文章で説明した方が良いのかなと思ったんですけど、今現行でされてるので、特に明文化する必要ないかなということでございます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

1 回目に 10 個言っても、あくまでもその一般会計予算の中の 10 個の話であって、大枠は一般会計予算の話ですから、その中の話であれば、先程言ったように 1 回聞いて、答弁いただいて納得しました。次、その中の範囲であれば、ほかの事を質問して答弁いただく。3 つ目もそういうことで答弁いただく。これは 3 回というルールの中でやっていいんじゃないかなと思うんですが、2 回目以降が 1 回目に触れとらん内容だからだめですという話にはならんと、あくまでも大枠の一般会計予算の中の質疑であれば、私は今までできるものと思うとったもんですから。できるんじゃないかなと思うんですが。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

その議論は、この基準と別のところでまた話をさせていただかないと先に進まんというのがあるので。一応、議会事務局の議会運営の中で、勉強しておる範囲では質疑についてはそういう扱いということで勉強をしてきてます。それはあとで他市町とかも御紹介をしながらしたいと思いますが、一応、基準の条文自体はこれで良いかどうかというところで、先に進めていただければと思います。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

拘って申し訳ないですけども、私の認識も、もう長く議員しながら、そういうふうなやり方がされてるということを思ってませんでした。そもそもその一括質疑方式として活用して、これが長与町の議会でこういう形だよっていうふうになってるというのが、多分、僕自身は思ってなかったですね。だからこの言葉を入れることでそういうふうな制限が掛かるんだろうなと思うんですよ。さっき調べてみたら分割質問、分割答弁という方式というのがあるみたいですね、一括質疑方式と違って分割質問、分割答弁方式というのが。これはテーマごとにとというような話、いわゆる例えば、総務部、建設部、福祉部というふうな形でやれる部分なんです。この方式を取り入れてますよという文言がそういう制限を掛けてしまうんじゃないかなというふうに思うんで、先程理事からその議論は違うところだと言われるならば、ここはちょっと保留にしまして、次に行った方が良くかなと。これがあることで、確かに言われるように今のやり方ができなくなるという部分があると思うので、厳密にやると、2 回目から違う質問を言い出せば、もうそこはできませんよというふうになってしまうという形になるんで、ちょっとここが、私はもう少し議論するためにも、ちょっと保留しておいた方が良くかなと。違う形でやれる方向性を考えた方が良くかなというふうに思いますので。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

一括質疑方式の逆は一問一答なんですね。一問一答というのは本会議では採用してません、一般質問以外は。質疑ですから。この部分については先程言われるように、保留にして構いませんけども、その辺り皆さんにお示しをしながら、また説明をさせていただきたいと思います。先に進んでいただいて、保留していただいて結構です。

○委員長（岩永政則委員）

今、保留した方が良いんじゃないかという提案があったんですけども。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

違う形でできる環境が整えられるのなら、僕はやっぱりちょっと議論すべきじゃなかなかって思うんですよ。それがもう絶対できないよというふうな状況ならば、それはどうするかという判断になると思うんですよ。これまでは会議規則にしても申し合わせ事項にしても、そこまでは厳しくしてなかったわけですよ。だから、そういうふうになってしまうというのは、基本条例に基づく議会のチェック機関というふうな役割からすると、そこにこう歯止めが掛かってしまうという部分では、ちょっとこう納得できないというふうな部分があるんで、違う環境は整えられるのかなと、違う方式のやり方で、そういうふうを考えられるんですかね。そこは何か違うやり方、さっき言われた一問一答方式しかないというふうになると、なかなか質疑の中で一問一答方式というのは採用されにくいんじゃないかなと、本会議の中では。委員会で一問一答方式でやれてますんでね。そうするともう全く違う形になってしまうような感じがするんで、ちょっとここはもう少しどうするかっていうのを考えた方が良くないかなと思うんですよ。

○委員長（岩永政則委員）

この件についてほかの委員の皆さん方、何かございませんか。ちょっと休憩をします。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

それでは休憩前に引き続き委員会を行います。会規 55 はこのとおりいいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

決定をさせていただきます。次に会規 56 発言時間の制限ですね。何かありませんか。

（「異議なし」の声あり）

それでは問題ないようですから、56 についてはこのとおり決定をさせていただきます。

次に会規 57 議事進行に関する発言、2 項目あるようです。ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

このとおり決定をさせていただきます。次に 58、59、60 についてはないようです。次に会規 61 一般質問、8 項目あるようです。まずずっと整理しましょうか。1 項については、いいですかね。2 項、いいですか。次に 3 項、一般事務とはという解説。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

この文言は何か文章を追加する必要があるかなというふうに思います。一般事務、町の事務とは関係ない国、県、他市町及び一部事務組合ということでこれについては、することができないというふうに明言してますよね。これは場合によっては、しないといけないときもあると思うんですよ。そのいろんな大きな問題が起きたときにですね。ですから、することができないとなると全くできなくなるというふうに思いますんで、状況は分かるんですけども、慎むべきぐらいの、そういう文言に変えるべきではないかなと。これになるともう全くできなくなると。いろんな様々な問題が起きたときに、特に一部事務組合の質問なんかも、以前できるかできないかっていうふうな判断で揉めたときもあったみたいでしたけども。やっぱり行政が関わる部分、町長が関わってる部分っていうのは、町民の関心事でもありますし、先程もちよっとほかのところでも言いましたけれども、基本条例の立場からすると、やっぱりチェックをしたりだとか、様々な質疑をやるっていうのは、議員のやっぱり権利としてあるんで、できないとなってしまうと、そういうのをやっぱり阻害してしまうというふうな意味からすると、できないというふうな文言は、逆に抵抗があるなというふうに思いますんで、慎むべきだとか、原則として、というふうな形の言葉を入れるというふうにしていきたいと思います。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

ここは、逆に慎むべきとか言う方がおかしいだろうと私は思います。というのは、皆さん町議会議員の権限はこの範囲しか無いんで、この外に出ることを許されるはずがないと考えますので、これはこのままできないで終わるべきだと考えます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

議員の立場から発言すると、行政側だとか町職員はそういうふうに感じるかもしれんですけど、やっぱり我々は住民の代表として出てきてるわけで、そこには様々な声があっていろんな立場で町長の考え方、こう言ってはなんですけど、政治家という形での思いだとか、感じ方だとか、捉え方だとかっていうのを聞かないといけない場合が出てくるんです。それができないというふうにしてしまうというのは、やっぱり議員の権限だとか権利を脅かすものだというふうに思いますし、これまでもそういう質問がされてきた経緯もあるわけですから、ここはやっぱりできないというふうな、非常に感じるのは規制をするための会議基準じゃないんですよ。足かせや手かせをつけるための会議規則じゃないんですよ。やっぱりそういう一定、権利だとかそういうのは保障しながら、ルールを作るという形なんです。ここでできないというふうな形にしまうと、権限を奪ってしまうし規制をしてしまうわけですから、だから全国の自治体でもいろんなことが起きてて、いろんな形での質問をされてると思うんですけども、そういうのを規制し

てしまうのはやっぱり僕は良くないと思いますんで、ここはもう譲っているところですよ。僕は原則としてだとかね。そういうところはやるべきだというのはかなり譲歩して言ってるんですけども、本来ならばこういうことを、基準だとか規則だとかに盛り込むべきではないというふうに思います。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方。浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

私は結論から言わせていただければ、できないで書くべきだと思います。この文言をよく読んでいけば、町の権限に属さない事務については当然質問をされても答えられないわけですから、答えられないものについて質問をする、これはもう完全にできないということで私は理解をしますので、できないという書き方が正しいのかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

河野委員の発言は、権限を制限するということじゃなくて、ここは議員の権利を明文化してるだけです。議員の権利はここまでですということですから、制限じゃないということ御理解いただきたいと思います。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方。何かございません。河野委員。

○委員（河野龍二委員）

議員必携の131ページの発言の自由と責任という言葉があって「議会は言論の府と言われる。」確かに言われることは分かるんですよ。行政の課題、行政の今やってる部分について聞くという部分と、先程も言いましたように我々いわゆる政治に携わるという形で、だから町長の姿勢だとかそういうことを聞かないといけない部分があるわけですよ。例えば全国的な課題の問題も含めて、そういうのがどうなのかと。やはり町民もそこに関心事があるかもしれないんです。で、そういう声があれば当然そういう発言をせんばいかんし、そういう意味では発言の自由っていうのは保証されんばいかんです。そこができないとなってしまうと、本当に町民の要求、いろんな様々の町長はどう考えとつとやろうかというふうな形での、そういう期待に応えきれなくなるわけですよ。こういう文言があることによって、発言の自由を制限してるというふうに思いますので、そこは敢えて盛り込むべきじゃないというふうに思います。

○委員長（岩永政則委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

この文言をそのまま理解をすれば、町の事務とは関係のない国、県、他市町及び一部事務組合の事務について質問をすることができないですから、町の事務と関係があれ

は答弁できると思うんですよ。だから、町の事務と関係のないものについては質問できないですから、当然答弁できないわけですから、質問できないという書き方で何ら間違いはないのかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

事務局、確認だけでも、施設組合とか福祉協議会とかですよ、そういうものはどういうふうに捉えて、この表現との関連は何かあります。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

分かりやすいところと言えば、一部事務組合、長与・時津環境施設組合がありますけど、環境施設組合の事務について、うちの議会はどうのこうのという質問は想定されないと。組合議会は組合の議会があるわけですから、そこで議論がされるべきということでございます。ですから町が、例えばその負担金とか出してますよね。その負担金を出すことは町の事務ですから、その部分は質問はできます。ただし、例えば組合の工事がどうだとか費用がどうだとか、その組合の事務に関しては議員としての権限がないということですから、質問は当然できないと。ただし、町が例えば1億円負担金を払ってる。その負担金がどうだこうだっていうところは、町の事務の範囲内では当然聞けます。ですから、ここは制限ではなくて権利を明文化してるというふうに理解していただきたいというふうに思います。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

そういう懸念がされる部分については、そういう解釈であるということなんですが、それに対して何かまだあります。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

発言としては同じ形ですね。僕の発言内容が十分理解できない。例えばその国の課題、県の課題、そういう課題があるときに町長のいわゆる姿勢だとか、考え方を聞くっていうのは、これは町民にとってもそういうふうな思いがあるときがあると思うんですよ。その声を、やっぱり国の課題に対して町長はどう考えてるかというときに、それができなくなるわけですよ。それは行政は、私たちのやることはありませんというふうな形になってしまうと。ただその姿勢だとか、考え方なりを聞く分については全然僕は問題ないと。問題ないと思うんだけど、それが今度こういう形になるとできなくなってしまう。頭から、通告を出すときからこれはできませんよというふうになってしまうと。やっぱりこれは発言の自由、議論をするのが議会の役割なんだけど、それをできなくなるというのは、やっぱり制限だとか規制だとかっていうのをかけてるというふうにしか思えないので、これは僕はもう納得できないというふうな形です。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方。竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

ここには町の事務とは関係ない行政体のことを書いてるわけですから、そのまま書いて。私達の権限じゃない範囲じゃないわけだから、できないということはそのままなんです、この文章どおり。さっき浦川議員が言ったように。これを聞きたいということは、あなた達のイデオロギーの違いとしか考えられない。これは文章としては全然おかしくない。だから100歩譲って、あなたがさっき言った言葉を入れるのは考えられない。これ以上議論をしてもずっと噛み合わないと思いますよ。議事進行をお願いしたい。

○委員長（岩永政則委員）

ほかに。御意見ないですか。それでは原案のとおり決定したいというふうに思いますが、いいのでしょうか。採決まではと思ったんですが、採決した方がいいですかね。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

このまま進めるなら、僕はこの文言は了承できないという形で発言しておきます。

○委員長（岩永政則委員）

それでは、採決をして決定をしたいと思います。3項については、このとおり決定したいと思います。異議ありませんか。

（賛成多数）

賛成多数で、3項についてはこのとおり決定をさせていただきます。

次に4項、何かございませんか。いいですか。4項には（1）から（8）までありますけども、事前に見ていただいて、これおかしいということ何かございませんか。

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

（3）の「質問の順序は、受付開始初日9時の時点で複数人となった場合は抽選とする。」というような書き方になってるんですが、事前に一般質問の通告書の受付期限などを封書で送っていただくんですけども、ここには9時以降が受付って書いてあるんですよ。だから9時以前に出された方の中で抽選とかするんであれば、そこら辺はもうちょっと分かるように、明確に書かれた方が良くないかと私思うんですが。実際の運用をするときに封書でわざわざ送ってくる中で、9時以降受付ですけども、その前に出された方の分でも受け付けますよとか、預かりますよとか、そういう文言を書いていただくと、一番真っ先を目指す人にとっては、失敗したという事例はあるんじゃないかなというふうに思いますので、是非お願いします。

○委員長（岩永政則委員）

項目については良いとしても、時間を通知文に書いていただきたいという要望ですね。暫時休憩します。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

休憩前に引き続き委員会を行います。3番については、浦川議員の指摘があったので、

その時間帯を明確に通知文に書いてほしいということですので、そういうことで記載をするということで皆さんいいでしょうか。いいですね。

（「異議なし」の声あり）

それでは3番目を終わりたいと思います。次に4番目、問題ないですね。5番目、いいですね。6番目、このとおりですね。7番目。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

今、大体何時からってというのが決まっているわけですね。これだと、例えば前の人
が30分20分で終わったと。そうすると、今でも1時間枠はとらずに早く質問してま
すけども、大体何時頃ってというのが、これでやむを得んのかなあ。今のやり方がどうな
のか、この間の一般質問ができなかった人の場合の問題も含めて、これがあると、例え
ば翌日1番にする人が前日の最後の人ができなかったってなると、前日になってしまう
可能性が出てきますよね。これはこのままだと、そうになってしまうのかなという気がす
るんで、どういうふうに捉えるか、ちょっと考えた方が良くかなと思うんですけど。

○委員長（岩永政則委員）

この7項目を入れた根拠は何ですかね。説明を。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

冒頭説明したように、この1から8は現行の申し合わせにこう書いてあるということ
でございますから、現行申し合わせを変えるのであれば、変えていただいて結構ですし、
前回も説明はしましたが、（8）の「3日間で終了を旨とし」から後ろはもう要らない
ということは前回説明を差し上げてたと思います。それと（1）の通告締切日の原則3
日前というのを7日前にできないかということを前回相談させていただいたつもりでお
ります。で今、（7）番、河野委員が言われた部分については、これも右側に赤で書い
てますけども、質問取り下げや欠席のときの取り扱い、この申し合わせ7番をそのまま
読むと、欠席者がおったら詰めるようなニュアンスになってしまう。ただ、本来は議事
進行運営上は、前詰めが基本だということでは認識をしていますが、うちの場合は午前2
人午後3人というルールを作ってますので、それを維持するのか、その中での
前詰めということにするのであれば、それはそれで明文化って言いますか、文章にしな
いと、これだけではちょっと言葉足らずになるのかなということでは考えています。

○委員長（岩永政則委員）

それでは4の7については、先程説明があったようなことなんですが、これで何か問
題が起きておったんでしょうかね。河野議員何か気付いておられますかね。

○委員（河野龍二委員）

現行どおりで、今のところ早く終わっても一定時間をとって次の質問を、少し予定し
てる時間より早くなりますけどね。その部分については良いと思うんですけども。先程

言われた、例えば質問の取り下げだとか欠席の場合、1時間早くなってしまう、1日早くなってしまうという形でのやり方になる場合があるかなと。特に広報と言いますか、一般質問の日にちと順番を午前2人午後3人で住民の人に説明してと言いますか、案内してるわけですね。そうなってくると、例えばだれかが欠席して一般質問しなかったという場合に、これになると質問が終了の場合は次の質問者が引き続き行うってなると、例えば3日目の午前中に質問する予定だった人が2日目の1番最後に質問するという可能性も出てくるわけですね。そうなってくると周知をしてた分とも違ってくるし、その辺をどう取り扱うかなというふうにちょっと感じてはいるんですけどもね。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの委員の方。

内村委員。

○委員（内村博法委員）

私の記憶では、7番目は「早期質問終了の場合は、次の質問者が引き続き行う。」と。これはもう現行やってるわけですね。ただ先程言われた質問取り下げ、それから欠席の場合、前の議会運営委員会のときに後ろの質問者に確認して決めるっていうことになったわけですよ。前回の議会運営委員会のときに。それは議事録見れば分かると思うんですけど。そういう処理をしたと思うんですけども、その辺りを再度確認してほしいわけね。前回の議会運営委員会のときに、やはり傍聴者がいるから。自分達の支援者とか傍聴者が来てるから、後ろの質問者に確認して良いかどうか決めてから、繰り上げするかどうかを議運で決めましょうという話になったはずなんですけどね。私の記憶ではそういうふうに記憶しております。だから、それは悪いって言えば、それはまた別の議会運営委員会だから、決め方はいろいろあるんでしょうけども、今回は少なくともそういう話をしたと思うんですよ。富永理事、もし覚えていたら補足してくれないですか。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

今、内村委員が言われるように、前回のときには後ろの人に確認をして、後ろの人が嫌ということで、1時間空けた経緯がございます。ただ、空けていいのかなっていう部分、例えば1番目の人が欠席したとき、開会していきなり1時間休憩をするという形になりますよね。そういうのも想定して、それでいいのかなと。後ろの人を確認するっていう必要が、詰めるという前提でいけば、何も考えずに詰めればいいわけですけども。隣の時津町はもう詰めますよね。早く終われば詰めて、昼休みに掛かったらそこで切って昼休み終わってから続きをやるみたいな。とにかく前詰めです。そのようにやられてる所もあると。ですから、うちがどのスタイルをとるか、例えば午前2人午後3人というやり方を崩したくないということであれば、その範囲内で前へ詰めるのか。例えば、午前中であれば1人目が欠席したときに、2人目の人が1番でいいかという確認をして、

嫌だと言えば休憩になる、いいと言えば1番になる。じゃあこの2番はどうなるのか。午後3人の3番目の人を午前に持ってくるということが可能なのか。それも聞いてするということであると、結局どこに休憩をとるのかという話ですよね。恐らく、いいですよという人は多分少ないだろうという気がします。ですから、今の現行申し合わせを素直に読むと前詰めに取れなくもないので、どういうふうにするのかっていうところを決めて、それにぴったり合う文章を考えないといかんだろうと考えます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

ほかに意見ありませんか。緊急やむを得ない場合が起こりうると思うんですね。だからそのときはまた、議会運営委員会で具体の面は対応していただくということが必要じゃないかと。それをこういうことを想定して、こういうことを想定して基準に入れていくというのは難しいだろうというのは感じますね。ですから、これだけ謳ってあれば、その都度、内容に応じて議運を開いて対応するということでしたいただければ、いいんじゃないかと思いますけど。いいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

7番目終わりまして、8番目は15人というのは変更せざるを得ないだろうということじゃないでしょうか、この前の事務局の説明は。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

右側の赤書きのところで15人を超えることはない。今、定数が16で議長がおるわけですから「一般質問は15人を超える場合は」っていう想定は必要ないということでございまして、全員が質疑をしても15人がリミットですから、3日間で終了を旨とする必要もなく、午前2人午後3人であれば3日で終わるということですから「3日間で終了を旨とし」という後ろは全部削除でいいだろうということでございます。

○委員長（岩永政則委員）

内村委員。

○委員（内村博法委員）

議長も一般質問をする権利があるんですよ。できないということはないんですよ。だから、16人になる可能性はあるわけですよ。議長はできることになってるんですよ、理論的には。できないというわけじゃない。そういうことなんで、その前提で例えば16人を超える場合はっていうのは、議会運営委員会で調整するというのは当たり前のことだと思うんですね。ただ「3日間で終了を旨とし」っていうのがちょっと。15人を超える場合は3日間ではできないわけなんでね。ここのところちょっと気に掛かるなっていうのはありますけども。通常は議長は一般質問はしませんので、現実的には実害は無いんですけども、ただ、これを書くと議長はできないということになるから、逆に言えば。そこがちょっと気に掛かります。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

ですから「3日間」以降の文言を消せば、議長ができないというのはどこにも無くなるので、決して問題ないというふうに考えます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

この「3日間」以降を消したらどうかというのが、事務局のこの前の説明でしたね。内村委員、今のことはそれでいいですか。これを消せば、議長はできるわけですのでね。「3日間」で以降を抹消ということでいいでしょうか皆さん。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

それではそのように抹消をさせていただきますね。あと、会規64発言の取消し又は訂正、1項だけありますけども、何か御意見ありませんか。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

今の一般質問のところですけど、（1）の通告締め切り「3日」を一応事務局とすれば7日で改正ができないかということで、考えております。というのは議運の3日前で議運の準備も当然あるんですけども、特に今、事務局は一般質問の手書きの関係の打ち直しとか、そういうものもありまして、実際には事務局並びに議長の方で、一般質問の通告書の中をある程度目を通して、議長から通告外である通告外じゃない、範囲を超えてるとか、その辺りのチェックを本来はすべきであります。今まで、ちょっと日にちが無さ過ぎて、すぐ議運ということでしたので、なかなかその辺りのチェックもままならない状態でございますし、分かり易くさせてもらおうと、今、各月の定例会が毎月第1回火曜日ということで、運用をずっとされてきてます。1週間前の火曜日に議運、その前の火曜日に一般質問の締め切り、その前の火曜日に一般質問の受付開始、これが時津のパターンですけども、毎週火曜日火曜日火曜日というふうな運用がもし可能であれば、非常に分かり易いし、やり易いというふうに考えているところです。ここはもう皆さんの決めたとおりという形になると思いますが、一応の事務局の案としては、全部毎火曜日という扱いにできないかなということを考えております。

○委員長（岩永政則委員）

事務局では、この4の（1）原則3日間を7日間とさせていただきたいと。いろんな事務の都合等もあるということで、これについて皆さん方いかがでしょうか。

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

事務局の事務のこともあるんだろうけど、全国の議会なんか見ますと、特に3月、当初予算とかそれから所信表明とか、そういうのに対して質問するというのは、その会期にやるんですよね。3月の会期に。これを早くやると、それは3か月先の議会でしか反映できないわけですよ。だから僕は根本的に、この議会の会期の中身というのは、今か

ら考えていく必要があると思っています。だからよそを見ると1日目に上程をして施政方針やって、そして1日休会を取ってすぐ質問と。皆さんお答えになる職員の方はみんなプロだから、だから即座に言っても、小さい数字なんかは当然できないだろうけど、それはできて当たり前じゃないのかなと。僕はもうその辺は昔からそういうふうに思ってたんですね。もう30何年前からそういうふうに思ってた。だから特にさっき言った3月の当初予算を含めた施政方針なんかについての反映が、3か月も4か月も先の質問になってしまうと。非常に危険性があるんじゃないかなと。私は個人的にそういうふうに思ってます。ただその事務の範囲の中で難しいというのもよく私もわかります、気持ち。しかし私達議会の人間とすれば、当然施政方針に対しても質問をそのときするというのが一番正しいやり方じゃないのかなと、そういう自論を持っています。だからこれをどうのこうのではなくて、今からこれも検討していただきたいというふうに思っています。

○委員長（岩永政則委員）

例えば、今度8月26日かね、具体的に言いますと。1週間前ですから26日の予定、それが、22日まで一般質問の締め切りにしとったんですね、3日前ぐらい。それを例えば19日にしていただければいいなと。それで、例えば8月9日から受け付けをしたとすれば、10日土曜日ですから。そうすると19日間の期間が一般質問の申し入れの期間があるからです。それでいければ、4日間縮めてもらいたいという意見なんですけども。そういう具体的に言えば日程的に追えば、そうなるだろうというふうに思うんですが、何か不都合な点がありましようかね。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

僕も現状どおりでお願いしたいと思います。確かに事務局の業務も大変だろうというのは推測しますが、議員定数が減って、そう考えると以前24人ぐらいいた時からすると、事務局の体制そのものはそう変わってないわけですよ。そういう意味では、これまでやれたことができなくなるという環境は多分ないんじゃないかと思いますが、随分前も多分こういう議論がされて、対立をするわけではないですけども、前回の議会運営委員会では一般質問の答弁書の配布をお願いした経緯もあるわけですよ。我々議員は1人で考えて一般質問を提出して、答弁する側はそれこそ200人ぐらいの職員がいてそれに対応するわけですから、そういう意味では、一般質問した中身の第1の答弁ぐらいは欲しいっていうふうに要請した時期も、なかなかそこも、そういうふうに受け入れられなかったという部分があるというふうな状況も。だからっていうふうな意味ではないんですけどね。ただやっぱりこれも先程竹中委員が言われたように、やはり時間が短いほど課題が見えてくる部分もありますんで、私はやっぱりこの現行どおりで何ら問題ないんじゃないかと思いますが。現行どおりの形で行っていただければと思います。

○委員長（岩永政則委員）

ほかに。

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

先程事務局の説明の中で、質問の内容を十分チェックしながら精査をするということ、おそらくチェックしてこういう質問はだめですよとか、そういったものも出てくるんだと思うんですけども、そこを厳格にやっていただくために、確かにこういうふうな日数が掛かるんだということであれば、私は7日前までで別に良いんじゃないかなというふうに思います。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方、御意見ございませんか。ちなみに理事者側に質問を、通告を渡すのは、議会運営委員会が終了した後に渡しておるんでしょう。そういう理解をしていいんですか。

富永理事

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

現状はそうなっております。

○委員長（岩永政則委員）

その辺りを含めて、念頭において。

内村委員。

○委員（内村博法委員）

原則3日までとするというのは最終締切なんですよ。その前に出していいんですよ。早ければ早い人。ぎりぎりを出してくる人は少ないと思います。だから実害は無いと判断してます。だから早く出す人は、もう前からぼんと出してくれますからね。だからそっちの方が多いと思います。私の感覚では。この3日前というのは、もうぎりぎりである人はあんまりないと思います。私の経験からですね。事務局もそういうふうに判断してるんじゃないかと。ぎりぎりを持ってくる人は少ないと思いますよ。そう考えると現状でもいいのかなと思ってますけども。実態が私はそういうふうに感じておりますけど、今までの経験から。3日前にぎりぎりを出してくる人は、そんなに多くありません。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方、御意見ございませんか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

今の発言からすると、最終日に集中するから大変だっていう、順次していくのならば処理する時間は十分ありますよね。先程言われた3日前、ぎりぎりに出すのが1人2人3人ぐらいだったら、十分その対応はできるのかなっていうふうに思います。今、逆の捉えで、早く出す人はその分事務局は順次そういうチェックができるわけでしょうから。僕は逆に考えるとそう思います。だから現行どおりでも何ら問題ないと。内村委員も最後現行どおりで問題ないと言われた。順次出してくるならば、その都度事務局が処理できるわけですよ。だからその3日前でも、全然何の支障もないんじゃないかと思いま

すんで、現行どおりでも全然大丈夫だろうと思います。

○委員長（岩永政則委員）

ほかの方。

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

私が申し上げたのは、日数ははっきり言って関係ない。僕がさっき言ったのは論点が違うんですね。私は、要はそれこそ当日でもすぐ対応してもらいたいということです。さっき言ったように、第1回の定例会のときの施政方針とかは反映ができないから。だからそういう部分は、綿密に答えていただくということは分かるんだけど、それでも私たちの職務としては、やはり二元代表制の中で議会というのは行政側を監視する役割があるわけだから、施政方針に対してすぐやっぱり反応すると。それで職員の方みんな優秀だから答えられるんですよ、小さな数字以外は。だから、今の論点と違いますので。だから私は今のままでも構わないし、事務局案の1週間前でも、どっちにしても一緒だと。どちらでも構わないという意見ですよ、この中で。ただ、違う論点の中からはやはりさっき言ったように、一般質問はすぐに職員の方に答えていただくというのが、私は一つの基本方針だと、そういうふうに考えています。

○委員長（岩永政則委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

私はあくまでも執行部の都合は考えていないんですね。先程の説明の中で、出された一般質問のチェックをするのに、事務局と議長とそういったものをやるのに相応の時間が掛かるんだという説明でしたので、そうであれば必要なんじゃないかなということで、7日間でどうかなということを申し上げてるところでございます。

○委員長（岩永政則委員）

意見が2つに分かれておるような感じもするんですけども。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

今、浦川委員の方からも御心配をいただきましたけども、先程申したような理由もありますし、河野委員の方からは体制は変わってないということで、議員は減ってですね。しかし、その当時と今の違いは、会議録作成に職員がずっと日々追われているという状況を、業務的には、以前と比べれば比べ物にならないくらい忙しい事務をやっているということは御理解をいただきたいというふうに思います。先程、3日前を1週間前ぐらいにどうかというお話でございますが、この辺りは今後、議会運営委員会でも今度視察にも行かれますし、よその状況等も見えていただいて、この3日をどうするかというところだけは保留をさせていただいて、また改めて検討していただければ。ここでまた時間食うと先に進みませんので、一応現行どおりで、先程8番は後半を削るというところだ

けで終わっておいて、この３日間の話についてはまた御相談をさせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。

○委員長（岩永政則委員）

何か提案をして、逆に保留をお願いされたような感じでございますけども、皆さんどうですかね。いいですか。大体基本的には現行どおりが多いようでございますのでね。そういうことで一応決定をさせていただくということで。次に、時間がもう１２時回っておりますけども、緊急質問。いいですかね。

（「異議なし」の声あり）

次に６４、発言の取り消し又は訂正。これは説明員のですね。問題ないですね。

（「異議なし」の声あり）

それではそのとおり。ちょっと、お諮りをしたいと思います。先程出ておりましたように２６日から研修が入ってますよね。この基準の件も研修事項に入れていただきましたよね。そういうことで、この先をもう少し進めたいと思って、配付をしたものを全部終わった方が良いんじゃないかというふうに最初は思っておりましたが、かなり議論も深まってまいりまして、約半分ぐらいの進捗でございますけども、あとにつきましては、この研修を踏まえていろいろまたあろうというふうに思いますので、よろしいですか。これでもまだ、９５まで終わってしまっても１３０、１４０ぐらいまでありますけども、全体は終わっておりませんので、どうかなと思ったんですけども、いいですか。

（「異議なし」の声あり）

はい、そしたら、午前の審議はこれで終わります、午後１時２０分から開始をしたいと思います。お疲れさまでした。

（休憩１２時０９分～１３時２０分）

○委員長（岩永政則委員）

休憩前に引き続き委員会を行います。西岡議員は用事のために退席をしておりますので御理解をいただきたいと思います。本題に入りますけども、第７章の会規６５、６６、これについては何もないようでございます。６７委員の発言、何かございませんか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、このとおり決定をさせていただきます。次に行きます。会規６８委員外議員の発言、何かありませんか。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、そのとおりまいります。６９委員の議案修正、これは３項目ありますね。何かありませんか。整理する意味において１からいきましょうか。１についてありませんかね。無いようでしたら２について、委員会付託案件です。いいですか。次に３、修正案の件ですね。いいですね。ここに括弧書きでありますけども、そのままなんです。富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

会規69の3が2つありますが、下の方は4になりますので4に修正方お願いします。それぞれの後ろにいている括弧書きのところでございます。これ、本町議会の先例がございましたので、平成25年の議案第2号と下の方が24年の31号で、これと同じパターンが先例としてありましたので、あった方がいつの議案だというのが分かるということで、敢えて残しておいた方が良いでしょうということで、それぞれ委員会可決のときと委員会否決のときの修正議案の取り扱い、どういうふうに流れるということで規定をしておいた方が良いでしょうということでの条文でございます。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

そういうことで括弧書きを入れておるとのことですね。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

3を4に訂正ですね。それでは会規69については、このとおり決定をさせていただきます。次に、会規70分科会または小委員会。何か全体的にありませんか。いいですか。なければ先に行きますがいいですか。

（「異議なし」の声あり）

それでは70についてはそのとおり決定をさせていただきます。次に、会規71連合審査会。これはあまり現実論としてはあってなかったですね。過去には。いいですか。ありうるわけですね。いいですね。

（「異議なし」の声あり）

無いようでしたら71はそのとおり決定をさせていただきます。次に会規72は何もありません。会規73所管事務等の調査、所管事務調査ですね。根拠規定等が109条の第3項いいですね。ありませんか。無いようでしたら先に行きますよ。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

会規73は、このとおり決定をさせていただきます。次、74委員の派遣、ありませんかね。いいですか。これは委員の派遣が、現実は今あまり聞いたことはないようですね。議員派遣の規定ではですね。いいですか。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

これは今度、所管事務調査で行かれますけども、この委員の派遣の手続きを行って皆さん今度8月に行かれるということでございますので、毎回視察のときはこれで行っているということでございます。

○委員長（岩永政則委員）

いいですね。

（「異議なし」の声あり）

それではこのとおり決定をさせていただきます。会規75閉会中の継続審査。いいですね。ありませんか。

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

1 番で「議会の議決により付議された特定の事件についてのみ行うことができる。」という決めつけをしますと、例えば閉会中の継続調査ということで、所管事務でここで関係ないことについてでも行ったりしよるですよ。所管を呼んだりも県外に出たりもしてるんですけど、これに当てはまるんですか、この条件に。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

委員会の閉会中の所管事務調査につきましては、皆さん御承知のとおり会期の最終日に、最後の最後に議長が、閉会中の継続調査の申し出が各委員長から出ていますと、いうことで皆さんに通知をしております。そこに入っている項目の分でしか閉会中はできないということでございますので、今回の視察についてもこの間の6月議会の最後に、その項目を含めて閉会中の申し出がされて議決を得るという形でございます。

○委員長（岩永政則委員）

いいですね。ほか3点目、特別委員会が出てまいっておりますけども、いいですか。無いようでしたら、このとおり決定をしていいですかね。

（「異議なし」の声あり）

それでは次に、76少数意見の留保、これもあまり少数意見の留保については、現実論としては報告等もあってないようでしたけども、あり得るわけでしょうから。何かありませんか。いいですね。

（「異議なし」の声あり）

それでは76は、このとおり決定をさせていただきます。次に会規77委員会報告、いいですね。なければこのとおり決定していいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは決定をされました。次にまいります。第8章表決。会規78いいですか。

（「異議なし」の声あり）

無いようでしたらこれで決定をさせていただきます。79、80はありません。会規81起立による表決。いいですか。このとおり決定していいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

はい、それでは決定をさせていただきます。次、82投票による表決。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

それでは82はそのとおり。次、83記名及び無記名の投票。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

それでは、そのとおり決定をさせていただきます。

次に、84、85、86は無いようです。87簡易表決。

（「異議なし」の声あり）

それでは、８７についてはこのとおり決定をされました。

次に８８表決の順序。いいですか。いいですね。

（「異議なし」の声あり）

８８につきましてはこのとおり決定をされました。次に請願の件、会規８９請願書の記載事項等、６までですね。１について、いいですか。受付後の訂正はだめだということですね。２番目、３番目は、紹介議員にならない規定ですね。４番目意見書決議、いいですか。問題ありませんかね。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

５番目のところ、ここがちょっとよく分からないっていうか、敢えてこれを入れんばいかんとかないと感じます。「紹介議員にならない」とか、「提出させないようにすることが望ましい」とか、何をここで言いたいのかよく分かりません。請願というのは、憲法のところで請願権があつて、そもそも、やっぱりそういう意味では権利を侵してはならないということですから、紹介議員になるにしても一定の責任を持って当然なるでしょうし、ここは注釈を入れるというのがよく分かりません。最後には、受理して不採択とせざるを得ないというふうな結果まで書いてるというのが。何をここで、これに基づいて、結果は結果で、また議会の判断、それぞれ議員の判断でしょうから。この文言が非常に不思議でならない。ここは敢えて必要ないのかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

事務局。理解が得難いということですから、理解できるように説明をしてください。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

確かに、くどくど書いてるような感じでございますが、そもそも論で、まず請願そのものは、町の権限に属するものについて出されてくるのが本筋であります。長与町に対しての請願はですね。意見書を出す請願は別ですよ。それは６番、下に書いてます。請願そのものは、町の事務でないと、町は対応できませんから、町の事務以外のことの請願が長与町議会に対して出ること自体は、審査しようがないという話です。今まで恐らく国とかに上げてきてるのは、意見書を出してくださいという請願については６番で対応しますからいいんですけども、それ以外、町の直接の事務に関係ない、例えば県の事務を何とかしてくれというのを長与町に請願を上げるのは筋が違うという意味を言わんとしているところです。ですからそれは県議会に上げなさいと指導をすべきで、それはうちに出すべきじゃないということを、議員にも分かっている欲しいということでの文言でございますので、理屈としては御理解いただければ別に項目としてはなくてもいいんですけど、これを書いておくことによって、町に直接出す請願そのものは、町の事務でない限りは、もう範囲外という形になりますので、５番と６番で今まで恐らく長与町議会は扱ってきた、意見書を出してくれとかいうのは全部６番にはまります。それ以外

は全部5番になるということを表現したかったということでございます。5番の一番最後のところに「陳情として受理で」と書いて「し」が落ちてますので「受理して」です。ですから、変な言い方ですけども、町の権限に属さない請願を町議会議員が紹介者になることそのものがおかしいってことを言わんとしてます。ですから紹介議員にならずに、陳情として、どうしても出すというのであれば、陳情で受け付けざるを得ない。紹介議員になることも、「中身は分かっていますか？」って話なんですよ。その議員に対して。これは町の事務ではないでしょうっていうことであれば、なるべきではないしなれない。ということと言わんとしている文章でございます。分かりにくければもうちょっと分かりやすく変えてもいいかなと思いますが。一応中身はそういうことで、5番と6番で請願の全体を表現しているということでございます。

○委員長（岩永政則委員）

分かりましたか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

趣旨は理解しました。ですが、やはり基本的なところで、基本的なところをルール上作ってるんですけど、敢えてここにこうですよというのを入れんばいかんとかになって思います。本当に基本の「き」みたいなものですよ。県のものを町で議論して、じゃあどうするかっていう部分というのは、十分その議員になるそういう時点でも理解してる場所なので、何か敢えて入れてるところというのが非常に手取り足取りしなくては分からないのではないかとされている気がしますので、入れる必要性はないのではないかなと思うんですけどね。趣旨は理解したので、あってもいいですけども、敢えて議員というものはっていうところを諭されている感じがして、無くて当然のことかなっていう気がしているところです。あってもそういう解釈だということでは理解したんで、不都合は無いと思うんですけども、敢えて入れる必要があるのかという気がしています。

○委員長（岩永政則委員）

趣旨は理解をいただいたということございまして、表現の問題で「ならない」とか「させない」とか、そういう表現がどうかという御意見ですね。この点、再度また検討も必要かもしれませんが、御意見ありませんか。

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

過去、この請願についてもいろいろ話があってるんですね。ですからこの趣旨に沿わない請願が出たものもあるんですよ。そういうことがあってるから、わざとこういう文章を入れている。だから入れとつても構わない気がしますけどね。

○委員長（岩永政則委員）

そういう意見ですね。「ならならん」とか「させない」とかいう表現が、ちょっと抵抗があるかもしれませんが、この点は、そのままでいいでしょうか。趣旨はみん

な理解をしたということなのですが、このままでいいでしょうか。

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

仮にこの紹介議員で持ってこられたときに、こういう流れがきちんと書いてあれば、最終的に陳情として受理して採択という形にでも持っていくのにも、相手に対しても話がしやすいということで、非常に私は分かりやすいかなと思っております。

○委員長（岩永政則委員）

それではこのとおりで内容は皆さん統一的に御理解いただいたようです。いいですね。

（「異議なし」の声あり）

それでは、８９につきましては、そのとおり決定をさせていただきます。

それから会規９０請願の紹介の取り消し、いいですか。問題ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

それではこのとおり、決定をさせていただきます。

次に、会規９１請願文書表の作成及び配布。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

赤文字を、会規９１請願文書表の作成及び配布ということで、矢印引っ張って請願書の写しの配布に変更ということ書かせていただいております。これは前回も若干に説明をさせていただきましたけども、そもそも請願陳情文書表って表にしてお配りをしているものについては、写しをつけない前提で、表の形でお渡しをしとったというのが建前でございます。その後、いやいや議員も見とった方が良いので、原本の写しをくれということで、今まで配ってきた経過がございまして、それであるのなら、もう最初から写しの配布でいいんじゃないかということでございます。議員必携の３５９ページを御覧いただきたいと思います。９１条が２つあります。上の段の９１条と下の段の９１条。今まで、上の９１条で文書表を作って配布するということをやってまいりましたが、写しがどうしても欲しいということであれば、参考規定である下の段の９１条でいいんじゃないかということで、変更をさせていただきたいと。こうなってくると会議規則の改正が出てくるということで書いてますけども、この会議規則の９１と９２については、議員必携で言うところの参考規定を持ってくる形になろうということでございます。

○委員長（岩永政則委員）

説明が終わりましたけども、このとおりいきますかということにはならないと思うんですね。これは基準の制定ですから、これはもう勝手にできますけども、会議規則は議会の議決が必要になってまいりますので、これを改正していかなければ、ここに９１の会規の標題括弧書きを、請願書の写しの配布に変えることは勝手にはできませんので。この点はこのとおりいいのでしょうかとは言えないというふうに思いますのでね。この点は、今のところは空白にしておいて、会議規則を改正したのちに変えろと。従って会議規則

の表題も中身も変わってくるということですから、この点は後日の議会運営委員会で、会議規則の改正の原案等については、再度決定をいただいて、それをもって提案をしていくと。その後に基準がそれに合わせた表現をさせていただいた方がいいだろうと思いますが、皆さん、いいでしょうか。いいですかね。

竹中委員。

○委員（竹中悟議員）

「原本の写しを望むのであれば」と書いてありますが、望む人は内容については分かるのに、わざわざこの写しを要するのか。ちょっとよく理解できない。

○委員長（岩永政則委員）

暫時休憩します。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

休憩前に引き続き委員会を行います。会規91については無いものとして処理すると。何故かと言いますと、会議規則の改正が先であるからですね、会議規則の改正を提案をして、議決後にこの基準には改めて文言を入れていくということで処理をしたいと思います。異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

そのようにさせていただきます。

次に行きます。会規92請願の委員会付託、1と2があります。いいですか。

（「異議なし」の声あり）

それでは会規92については、このとおりに決定をさせていただきます。

次、93紹介議員の委員会出席1から6までです。いいですか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

この5番目は、請願人の参考人の出席を求めると、その前段が「議員の説明が不十分である」とかいう形になってますけど、基本条例では要請があれば参考人とすることができるみたいな形だったんで、ここがこういうふうになると、どっちがどうなのかっていうふうになりますんでですね。私は基本条例が最高規範という形で決定したわけですから、こういう表現ではちょっとまずいのかなというふうに思います。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

この部分については、前回の説明のときにも簡単にお話はさせていただいたつもりでございます。基本条例のことを言われておりますけども、基本条例の方は6条の3項で「請願及び陳情の審議等において提案者が希望するときは意見聴取を行う機会を設けることができる。」、「できる」なんですけども、そこですね、基本条例の関係するとこ

ろと言えそうですね。そもそも基本条例の前に会議規則といいますか、議会の請願の取り扱い、何のため紹介議員がいるのかと、それと以前も紹介議員の説明が不十分だということで勉強不足ということも含めて、否決されたことがございました。紹介議員というのは、その願意を議会に伝えるために紹介議員になっているのであって、紹介議員が中身をよく分からないまま紹介することあってはならんというのがまず前提にあります。本来であれば、紹介議員の説明で十分審議が行われるべきというのがまず前提にあるということでございます。それと右側にも書いておりますけども、現行では、この間も説明しましたが、無制限に参考人を呼べると、基本条例だけでいけばですね。ところが、そういうもんじゃないだろうと。例えば、先程の請願の中で、国に意見書を上げてくれという請願が来たときに、東京の人が出してくるかもしれない、北海道の人が出してくるかもしれない、これを本人が説明に来たいと言ったらじゃあそれを認めるのか。その範囲は限りなく限定をしとかなないと、極端に言えば町の事務に直接関係する請願であれば、この間の使用料手数料でもやりましたけども、住民の声を聞くんだという建前で参考人として呼ぶことは良いことだと考えておりますが、この参考人の範囲を無制限にしておくというのは、いかがなものかなと感じておりまして、右の方に「真に町の事務に係る町民の請願に限るべき」ということで赤で書かしていただいておりますけども、やはり請願というのは基本は紹介議員が責任持って紹介すべき内容だということを前提に置かないと、この請願者なり陳情者なりを直接安易に呼べるということになると、今度紹介議員が自分の責任を負わなくなる可能性が出てくる。もう請願人を呼べばいいと、聞いてくださいという話になりかねないことを心配するところから、まずは紹介議員に責任を持たせないといけな。請願についてはですね。そこがまず一義的にあります。それと先程申しましたように、この基本条例の住民の声を聞くというのは、この住民は長与町民だと思ってます。長崎市民の声を聞く必要は無いと思ってます。ですから参考人呼んでもいいですが、参考人の範囲は限定をしとかなないと、無制限に解釈がされてしまうってことを、皆さんで意識しながら議論をしていただければと思います。

○委員長（岩永政則委員）

浦川委員。

○委員（浦川圭一委員）

読んでいて理解ができないんですけど、93条に係る会規ということで、紹介議員の説明を求めることができるとして「求めがあったときはこれに応じなければならない。」という、この範囲の中で取り扱いを示すべきだと思うんです。そうすると私はこの3番目までで、4番、5番、6番についてはあまりにも拡大解釈して、先程から出てます基本条例辺りからの運用も引っ張りこんできて、書き込んでるのかなっていう気がしてならんわけですよ。だからこの3番目までで、93条の関連する取り扱いとなると、3番までで留めるべきじゃないかなという感じはしてるんですよ。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

浦川委員のおっしゃられるとおりでと思います。4番、5番、6番、先程お話をさせていただいたように、参考人の制限とかもある程度頭の中に入れながら、例えば会規93は紹介議員の委員会出席なんですけども、結局、委員会に出席した紹介議員の説明だけでは足らんというところが5番の部分になってくるとのことと、3番まででいくと委員会が呼ぶことだけがあって、紹介議員が自ら出席して説明をしたいというときの対応が、会規93では分からないというところでございまして、会議規則の項目に、一番この93に入れるのが分かりやすいかなということで、無理やり入れたたような感じでございますけども、もしくは94に持っていった方がいいのかもしれないです。審査の中でですね。場所はひょっとしたら94の方が良いのかもしれないです。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

今の説明ですと、やっぱり今度基本条例等々も触らないといけない状況になってくるのではないかと思います。確かに遠方の方の云々というのは、そのときの委員会で判断すれば良いわけであって、どうしても本当に必要なときがあるわけですね。そういう場合はここに敢えてこういうふうにするんじゃないかと、そのときの判断でしてもらうという形で。ここがあると、そういうふうに障害が出てきそうな感じで、これに基づいてこうだつていうふうになってしまいますんで。これは柔軟な対応ができるようにした方が良くないかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

今の河野委員の御心配のところは全く、この4、5、6では制限は掛けておりません。私が右側の赤字で心配してるのは、今のままでいくと制限が無いですよっていうことですから、4、5、6に特に制限があるということには考えておりません。4、5、6では幾らでも呼べます。

○委員長（岩永政則委員）

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

その条件がついてるわけですかいい。不十分であるということのも非常に曖昧ですたい。じゃあどこがどうだろうかっていう、十分やったという人もいるかもしれないし、不十分だという、そういう条件をつくるんじゃないかと、今のところ基本条例は本人が説明に来たいというふうになれば、呼ぶことができるというふうにしてるわけですから、そこで良いんじゃないかなと。いやいや大丈夫ですよというふうに言うならばそれで構いま

せんし、その委員会の判断で任せるといような形にしとかなないと、ここだけを捉えられて、十分だったとか不十分だったとかっていう話だけでなってしまうと、やっぱり元々基本条例が最高規範という形でそういうふうにしてるわけですから、そこは敢えて注釈を入れるのは必要ないんじゃないかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

答弁と質疑は平行線をたどっておりますけども、ほかの方何か御意見ございませんか。
内村委員。

○委員（内村博法委員）

5番ですけど、ここは陳情と請願がごたまぜになっているもんだから、会規93の「紹介議員の委員会出席」ってなってるから、この「陳情者」は除いたらどうかと。この5番、もし多分事務局の考えどおりに表現する場合には、紹介議員の説明だけでは不十分である場合には、請願者を委員会条例第26条の2を参考にして出席を求めることができる。この陳情者のところは要らないのではないかなと思うんですよ。陳情であれば紹介議員はいないので、これも確かにそうなんですけども、要らないじゃないかなと。ごたまぜになっているから。請願だけに絞ったらどうかと。

○委員長（岩永政則委員）

95条に請願書関係の例によるということで会議規則に載ってますので、ここは言われるとおりの請願のところですから、請願だけに絞って今のように訂正をした方が、入れるならですね。ただ4番から5番、6番は要らないという意見もありますし、その辺りの調整をしなければいけないだろうとは思いますがね。今の内村委員の発言はそのとおりだろうと。私も個人的にはそのとおりと思っております。何かありますか。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

先程一番最初に浦川委員から4、5、6は93じゃないんじゃないかということ、確かにそのとおりというか、4番までは紹介議員が委員会に出る話ですから、4までは93に残って良いだろうと考えます。5番と6番が多分94に移るべきだろうと。請願の審査の中ですね。5番については、先程内村委員から訂正がありましたように、陳情の部分を省いて5番と6番は94にぶら下げるとというのが一つ考えられるかなと思います。一応93は1、2、3、4までで委員会出席について限定をすると。5番6番は、その委員会が審査をするときの参考人なり執行側の出席の要求ですから。確かに紹介議員の委員会出席というタイトルにはちょっとそぐわないのかなという気がしますので、5番6番は94にぶら下げた方がすっきりするような気がいたします。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

5番については、先程あったようにごっちゃに請願と紹介がありますので、そういう整理をするべきだろうと思うんですが、事務局では5番6番はここから外して良いでしょうという意味ですかね。そういう指摘があったので94にですね。皆さんどうですか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

94に持っていくといっても、94も請願の審査報告ですからね。会議規則によると「委員会は、請願について審査の結果を次の区分により議長に報告しなければならない。」と。そのうち採択すべきもの、不採択すべきものと。審査方法なんか何らここに謳ってないですもんね。審査が終わったあとの報告の仕方を94条は謳ってるので。ここもちょっとそぐわないと思います。敢えて続けて言いますと、敢えて入れなくても基本条例の中でそういう形で謳ってますからね。省くべきではないかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

いろいろ意見が分かれてきましたけども、3番目まではもう問題ないですかね。4号を例えば入れるとして、委員長はこんなこと言ったらいけんかもしれませんが、紹介議員が自ら出席して説明をしたいという、これは先程の基本条例では「希望」という表現があるんですね。希望する場合はということですから、説明を希望する場合は云々と繋げた方が表現上は良いのかなという感じがします。もし御了解いただければ、4番目はそういう形でさせていただいていいでしょうか。富永理事、そのように整理を。「紹介議員が自ら出席して説明を希望する場合は何何」そこまで一応4番目はこれで終わりとして、5番目が、残すとすれば先程内村委員からありましたように、「紹介議員の説明が不十分である場合は、請願者を委員会条例第26条の2の参考人として出席を求めることができる。」と、こういう繋ぎでしたね。もう1回読んでみます。5番目、「紹介議員の説明が不十分である場合は、請願者を委員会条例第何」に繋げて、陳情関係は全部除いて、これが会議規則の第95条に連動しておりますので、準用するようになってるので、それでいいのかなという感じがします。いいでしょうか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

何度も言いますが、基本条例の中には、説明をしたいという要請があるときはできるというふうになってるわけですかね。それが今度、ここに1つ壁ができるわけですかね。不十分だから説明したいと来ても、来んちゃよかですよという形になるわけですかね。基本条例に基づけば、この文言はちょっと違うっちゃなかかと。例えば請願人が、基本条例ではこう謳ってますよと言われた場合に、条例違反じゃないかというふうに言われかねないですよ。じゃあどうすつとかなって、その辺は、と思います。

○委員長（岩永政則委員）

暫時休憩します。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

それでは、休憩前に引き続き委員会を行います。したがって、ここにもう1回確認をいたしますけども、1、2、3はそのままですね。4については「紹介議員が、自ら出

席して説明を希望する場合は、会規68云々」に繋げると。それから5番目には「紹介議員の説明が不十分である場合は、請願人を委員会条例何々で出席を求めることができる。」と。このように変更して6はそのまま生かすということで、異議ありませんか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

確認です。5番のこういう注釈文書が出てきますけども、基本条例の第6条に基づき、今後も請願及び陳情等について提案者が希望するときは意見聴取を行うことをできるとするのは、委員会の対応上変わらないというところを確認したいというふうに思います。

○委員長（岩永政則委員）

それでは皆さん方にお諮りをいたしますが、今の河野委員の御心配の件は、基本条例は条例で尊重されると。従って会議規則を尊重しながらその細部についての基準ですから、当然言われるようなものができるというような、そういう解釈で皆さんいいでしょうかね。

（「異議なし」の声あり）

いいですね。そのように確認をしたいと思います。ちょっと時間が過ぎましたので、1時間経過しましたから、14時45分まで休憩をしたいと思います。

（休憩 14時29分～14時42分）

○委員長（岩永政則委員）

休憩前に引き続き委員会を行います。河野委員。

○委員（河野龍二委員）

請願の審査報告だけに限らないのかもしれませんが、ちょっと疑問です。審査未了、これは議員の任期が終わって審査ができなくなったというところは審査未了になると思うんですけど。例えば2年間の任期の中で委員会が継続審査したと。次の任期のときには、例えば6月には委員会の構成が変わるという場合は、これ審査未了になるのですか。審査してきた委員が変わるとなると。ここに限らずですけども、例えばほかの議案でもそういう可能性が出てきた場合は、審査に関わってきた委員が交代するとなると審査未了になるのかどうかですね。請願の審査報告とちょっとずれるかもしれませんが、関連していると思いますので疑問として聞きたいと思いますけども。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

今、河野委員が言われた議員の交代、委員の交代については、審査未了っていうことではないです。請願そのものは、紹介議員をつけて請願が受理をされたらそれは提出要件で、議会として受理をした形になってしまいますので、それは構成が変わろうが議員が変わろうが審議としての継続はされます。ここで書いている審査未了っていうのは、その前段の「終了しなければ継続審査を申し出」ということになっておりますが、当然会

期中に終わらなければ継続審査の申し出をしないと着手ができない。これが審査の申し入れをしない場合、会期が切れると自動的に審議未了になってしまうということで、会期の終わりのことを表現しております。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

いいですか。1項についてはいいでしょうか。2項はどうですか。私からですけども、議会の権限外の事項について表現があるんですが、これはそれでいいんですかね。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

これは先程、請願の89の5で、町の権限に属するものでなければならぬとか、提出させないようなという話をさせていただきました。ここと関連をしまして、基本的には紹介議員の段階で町の事務に関係ないものは請願として出させないようなことをしないとイケないというのが建前でありまして、そうであっても形式が整っておれば受理せざるを得ない。出されればですね。ですから、こうならないようにこの前で抑えてくれというのが先程89で出た話でございます。紹介議員を付けて、正式に形式受理になりますので、形式さえ整っておれば受理はしなければなりません。ですから受理をして審査して権限外で不採択という扱いにしかならないですよ。出されればですね。ですから権限外の請願は紹介議員にならないようにとか、出させないような努力をしてもらわないとイケないというのが、先程の会規89でお話をしたところです。一応そういうことをしていただいて、それでも紹介議員になって請願の形式を整えて出されれば、議会として受け付けざるを得ないので、却下もなく審査をして不採択になるという表現でございます。

○委員長（岩永政則委員）

お分かりでしょうか。いいでしょうか2は。3番、いいですか。4番。いいですか。

内村委員。

○委員（内村博法委員）

1番目に戻るんですけども、会規94「委員会に付託した請願は、質疑、討論、表決し、採択か不採択かを決定し、議長に報告する。」こうなってるんですけども、表決そのものが採択か不採択かを表決し、「決定し」でなくで「表決し」だものね。この「表決し」を削除して、「採択か不採択かを表決し」と「決定を表決し」ってなったらどうなんですかね。採択か不採択かが表決になるわけで、

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

これもう単純に表現になるんですけども、請願の審議については質疑があつて、討論があつて、表決があつて、採択か不採択が決定をされるっていうことを書いておりますので、結局その表決の結果が採択か不採択を決定するという書き方になっているという

ことで、御理解いただければと思います。

○委員長（岩永政則委員）

一応このままの方が良いんじゃないかというふうな事務局の見解ですが。

内村委員。

○委員（内村博法委員）

私は、質疑、討論そして採択か不採択かを表決するっていうことで、この文章の表現を縮めれば良いのかなというふうに考えたわけです。それで質問したわけでございます。今言ったように質疑、討論、表決しっていう一連の流れを今、手続きをとるということで、最終的に採択か不採択か決定するという意味であれば、それは別にこだわりません。

○委員長（岩永政則委員）

それでは4番目にまいりますが、いいですか。

内村委員。

○委員（内村博法委員）

ちょっとこの理解なんですけど「委員会を代表する委員長名で発委。」と。全会一致であれば当然発委でできます。しかし、全会一致でない採択であれば当該委員会の構成員2名以上で発議と、委員会です。委員会で発議しても、これ全会一致じゃないから、多数決を要求するわけですね。というふうに理解するならこれでも良いと思います。全会一致でない採択であれば、当該委員会の構成委員2名以上で発議と。委員会だから多数決が原則なんで、敢えてこれ入れる必要があるのかなと。だから、何か意味があるのかなと思うんですけども。発委そのものにこだわれば、全会一致。それ以外は発委ではありませんよっていうことを言いたいわけですね。そうであれば、この文章でも良いんですけども、そういう意味であれば、全会一致の場合は発委。全会一致でない場合には構成委員の発議で意見書を提出するとか、そういう表現になるだろうと思うんですけど、ちょっと言葉正しくないなというふうにね。表現の問題ですけど、これも分からないわけじゃないんですけども、ちょっとその辺りが気に掛かりました。

○委員長（岩永政則委員）

今の内村委員の指摘について、若干舌足らずの面があるんじゃないかというような。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

「全会一致であれば委員会を代表する委員長名で発委とし、全会一致でない採択であれば当該委員会の賛成委員2名以上で発議とする。」でいいですか。所管委員会で不採択、本会議で採択は委員会を問わず紹介議員を中心に2名の発議で議案を作成し上程する。」と。

○委員長（岩永政則委員）

それがいいかもしれませんので、今2行目に、発議の後に「とする。」それから1行目の真ん中に「発委とし」、そして2行目が「発議とする。」

竹中委員。

○委員（竹中悟委員）

議事の進行なんですけど、こういう問題点があったときはで休憩に落として、お互いに皆さんの意見を聞きながら調整した方が、1回1回マイクを通してするよりその方が分かりやすいと思うんですよね。最後の結論を委員長にマイクで取っていただければと。

○委員長（岩永政則委員）

それでは申し上げました4については「とし」「とする」ということで、何か御意見ありませんかね。では、暫時休憩します。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

それでは休憩前に引き続き委員会を行います。4について、もう1回言います。2行目の「委員長名で発委とし」、それから3行目の「2名以上で発議とする。」として決定していいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

それでは次にまいりますが、委員会での付託云々。問題ないですか。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

この文言だけ見ると、今まで委員会審査してるのとちょっと違うかなというふうに思うんですけども。付託された請願を議案の前に審査するという意味なのかなと思うんですけど。ちょっとそこどういうふうに解釈すればいいのかですね。

○委員長（岩永政則委員）

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

今、河野委員が言われたとおりでございます。右側にも書いておりますが、先程決定した4番の、ここで議案の作成を誰がするのかという主体が決まらないと、その人たちが作業ができないという形になることを考えると、請願の採択、不採択のところは、私は先に転がして、誰が案を作るんだっていうところまでは決めとった方が、手続き上、議員の皆さんが準備がしやすいんじゃないかということで、先にした方が良いんじゃないかということで、一行入れております。以上です。

○委員長（岩永政則委員）

そのような見解です。いずれ全会一致にしても文面を誰が作るかという問題がありますよね。いいですか河野委員。議案が先じゃないかというのもありましょうし。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

私の今までの経験の中からはやはり、提案された議案の方が、どっちがどっちだっていうふうに天秤に掛けてはいけないかもしれないど、やはり議案は町全体の様々な課題

に関わってくるわけですから、そこがまずしっかりと審査されて結論を出したのちに、個別というか、一定の団体の考え方だとか、そういう請願を取り扱うというのが、これまでの議会運営上の常識なのかなというふうに思ってたんで、議案より先に出されている請願を審査するというのが、場合によっては請願が継続審査になったりするわけですよ。時間も足りなかったんという場合。なるだけ議案は継続審査にならんようにせんばいかんと思うんで、それが、そういうふうになる場合が出てくるとまずいかなと思うんで。心配されてるのは、採択、採択後の委員会発議、議員発議ときの資料の問題だと思うんですけども。そこはやはり関わった議員が、どれだけ時間が掛かろうと責任持ってやらなくてはいけないのではないかなというふうに思いますので、まずは、議案審査からやるというのが原則ではないかなと思います。

○委員長（岩永政則委員）

暫時休憩します。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

休憩前に引き続き委員会を行います。会規94の5番目については、一応今回はこれは抹消するということで御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

それではそのように決定させていただきます。次に6番。問題ないですかね。

（「異議なし」の声あり）

7番目、請願を議決したとき。いいですね。

（「異議なし」の声あり）

それではそのように決定させていただきます。次に、今日の最後になりますけども、95陳情書の処理。1番目2番目3番目、いいですね。

（「異議なし」の声あり）

それでは95については、このとおり決定をさせていただきました。大変時間をとりまして、非常に濃密な審査をしていただきました。以上で本日の会議は終了となります。今から次回に伴う資料を配付いたしますので、お願いをいたします。

暫時休憩します。

（暫時休憩）

○委員長（岩永政則委員）

それでは休憩前に引き続き委員会を行います。今配付をいたしました次回の資料についてポイントだけ説明を求めます。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

それでは、第10章の秘密会からでございます。第10章秘密会については特に記載はございません。第11章の辞職及び資格決定のところで、それぞれ議長及び副議長の

辞職、議員の辞職、会規１００、１０１です。一応１０１については、資格決定の審査の流れを①から⑩で書いてはいるんですが、あった方が分かりやすいかなと思って入れておりますので、要らんということであれば削っていただいても構わんということで考えています。１２章、１３章にいきまして懲罰が出てまいりますけども、懲罰の定義と、裏の方に行きまして懲罰の審査は、懲罰特別委員会に委員会条例により付託をするというところ。それと会規１１３については、それに伴う戒告陳謝の方法。あとそこは懲罰が１１６まで並んでまいります。そしてあと下は１４、１５、１６、公聴会、参考人、会議録のところで会議録署名議員の選び方を現行に合わせた形で書いております。

第１７章の全員協議会のところなんですけども、会議規則の話になるんですけども、私が今まで見てきた中で、法律、自治法上は全員協議会が協議調整を行う場という位置付けがされています。それで標準会議規則も全員協議会という位置付けでされているわけなんですけど、現行の長与町の会議規則上は、協議調整の場ということで全員協議会と政策討論会、議会報告会、住民懇談会が表になって協議調整の場という位置付けで規定をされてるというのがございまして、果たしてその議会報告会とか住民懇談会が協議調整の場かなど。法が示す協議調整の場というのは、議会内の協議及び調整を行う場という位置付けで全員協議会が位置付けられておりまして、それと同等のレベルで議会報告会なりが、そこで書かれていいのかなということを考えておりますので、その辺も踏まえて、これは最終的には会議規則の修正になってしまいますので、また別の話になりますが、現行の協議または調整を行うための場に全員協議会以外の項目が入っている。それについては基本条例の方で明文化をされておりますので、それぞれの会については担保されておるということですから、会議規則はあくまでも本会議及び委員会について規定をすべきであって、ここに住民懇談会が入ってくるのは、いかななものかなということと考えているところでございます。それと先程のペーパーにちょっと戻りますが、１つには、会規１０１の資格決定審査の資格審査特別委員会、それと会規１１１の懲罰特別委員会については、現行の委員会条例で定数が８と決められています。ただ、うちは定数１６で議長除けば１５、採決の段階では８人おれば過半数。既に委員会だけです。通常、委員会の審査っていうのは過半数に足らないという、結局委員会審査が決定になってしまうということのを避けるという意味で、人数を過半数にならないように設定をされてきてました。今までは。ただ、うちの委員会条例が、定数が２４から２０に下がって１６に下がるときに、そこの懲罰と２つの特別委員会の定数を、多分そのまま減らしてないという形で今残っていると思ってます。今度皆さん、会議規則、基準等も含めて視察に行かれるということですから、そこら辺もよその懲罰と資格の委員会は何人になっておとか、そういう基準も多分いただいてこられると思いますので、その辺りも頭に置きながら、見てきていただければということと考えています。簡単に終わります。

○委員長（岩永政則委員）

一応説明をいたしましたので、これ確認なんですけど、これで全体が１３０で終わりに

なるわけですが、今のこの申し合わせ事項の中で、ほとんどこれに今までのものに入ってしまうんですか。どういうものが残るんでしょうか。それだけちょっと事前に。

富永理事。

○議会事務局理事兼監査事務局長（富永正彦君）

皆さんにお持ちいただいている青ファイルの1の12が申し合わせでございまして、1ページ、2ページ、今回、ずっと審査をいただいたA3の紙には選挙の投票用紙が載ってません。29と83。これはもう投票用紙の様式の規定なんで、これを基準に載せるべきかどうかというところは迷って載せてません。それと、3ページにいて上から会規の127まで入ってると思いますが、そこから下の法102から今度委員会条例の説明が入っていきますけど、そこについてはまだお示しをしていないところでございます。会議規則では先程お話しした投票用紙の様式以外は全部入ってきてるということです。

○委員長（岩永政則委員）

それでは、どうしてもという質疑ありませんか。いいですか。それでは、これで検討いただくとして、次回の会は、先程話があってあったんですが、9月定例議会の前の8月26日の議会運営委員会のときに、議会日程等が終了したのちに、これを審査するということで話もしていたんですけども、いいでしょうか皆さん。

（「異議なし」の声あり）

それではそういうことで、基準の審査についてということで通知をお願いしたいと思います。以上で本日の議会運営委員会を閉会します。

（閉会 15時17分）